

令和6年度 第1回岡崎市図書館協議会議事録

1 日時

令和6年8月6日(火) 午前10時開始、午後0時5分終了

2 場所

岡崎市図書館交流プラザ1階会議室103

3 出席者

(1) 出席委員(10名)

高井俊直委員、清松治子委員、平岩ふみよ委員、鹿嶋浩委員
江良友子委員、光田泰央委員、湊百合子委員、浦部幹資委員
柿田憲広委員、杉原毅委員

(2) 欠席委員

なし

(3) 説明のため出席した事務局職員

加藤社会文化部長、谷端中央図書館長、大村副館長、本多総務係長、
天野資料提供サービス係長、上川畑情報サービス係長、町谷主査

4 傍聴者

なし

5 次第

(1) 社会文化部長あいさつ

加藤社会文化部長あいさつ

(2) 委員紹介

各委員自己紹介による

(3) 会長及び副会長選出

会長：高井委員、副会長：清松委員を互選

(4) 会長あいさつ

高井会長あいさつ

(5) 議事

ア 令和5年度事業報告

イ 令和6年度事業計画

ウ 報告事項

(6) その他

6 議事要旨

(1) 令和5年度事業報告

事務局から説明

(会長)

事業報告について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

額田図書館と南部市民センター図書室に図書館業務専門スタッフを配置しているとのことだが、どのような専門性があるのか。利用者の立場からするとどのようなことが期待できるのか。

(事務局)

司書の資格を持っているスタッフを配置しており、資料相談などの対応が可能である。他の市民センターは事務職員が図書業務を行っており司書の配置がない点が違う。

(委員)

議事資料(1)3ページの個別施策①レファレンスサービス(調べものの支援)の充実について伺う。記載されている実績によるとレファレンス件数が年間1000件程度あるとのことだが、1日あたりにならすと3件程度ということになる。ここでいうところのレファレンスとはどういうものか。1日あたり3件というのは非常に少ない。レファレンスカウンターで受けたもののみをカウントしているように見受けられるが、レファレンスサービスは館全体で取り組むサービスであるという捉え方をしていくべきではないか。

また、職員の配置であるが、レファレンスサービスを提供しているのは情報サービス係かと思うが、司書資格を保有している正規職員が1名しか配属がない一方で資料提供サービス係には4名も配属がある。司書職の会計年度任用職員がレファレンスサービスを支えているという現状かと思うが果たしてよいのか。

また、レファレンスサービス研修への参加者の年間目標人数が4人とあるが、1日の研修に4人参加させたいということか。議事資料（1）12ページにある館内研修ではレファレンスの研修は行ったのか。

（事務局）

資料の場所を聞かれるなどといった簡易レファレンスはカウントしていない。レファレンスカウンターと子ども図書室で受けた、職員が対応した専門性が必要とされる相談のみを計上している。額田図書館や南部市民センター図書室といった委託先での件数も含まれていない。カウントのしかたについてこの場でどうするということはお答えできないが、簡易レファレンスも含めると数字が増えるという指摘はその通りである。

司書資格を有している職員の配置については、本市の場合は正規職員は行政職員のため、図書館以外への異動があるため、司書職の会計年度任用職員に頼っているという現状は指摘のとおりである。ベテランの司書が多く、専門性の高いレファレンスにも対応できるため、正規職員のレファレンスサービスに関する業務は司書のサポートにシフトしている現状はある。

レファレンスの研修であるが、愛知県図書館の研修には様々なメニューがあり、それぞれ参加している。4人、というのは合計の目標値である。

それ以外の小さな研修もあり、すべてはカウントできていないが参加できるものには積極的に参加している。

館内研修の2回にはレファレンス研修は入っていない。

（委員）

簡易レファレンスは大変重要である。そこから本格的なレファレンスに繋ぐようにしていかないとみんなが使ってくれる形になっていかないと思う。カウンター業務を委託しているため、業務を切り分けているとは思いますが、そこをうまく乗り越える手段を考えていかないと、レファレンスサービスが館のものとして定着していかないと思う。

（委員）

図書館概要の24ページの統計によると、ビデオテープが1,000点ほど除籍されている。再生機が製造されているわけでもなく、利用が少なくなっているとは思いますがそのビデオテープにしか載っていない情報もあるのではないかと。ビデオテープの除籍基準はどのようにしているのか。

次にりぶらっこ便は実費負担ということもあって利用が伸びていない。今後は実施していることに意義がある、というスタンスなのか利用が伸びるように何か取組みを考えているのか。

3点目は貸出者数の推移であるが、本館と額田図書館は減少しているが、地域図書室は増えている。これはどのように分析しているのか。

4点目は令和5年度の事業報告の各事業に令和6年度目標値が設定されているが、達成されているにも関わらず同じ目標値になっているのは何か理由があるか。達成されているのであれば、より高い目標値にするのが通常であると思う。

(事務局)

類似したDVDなどがあれば除籍している。ビデオの経年劣化もあり、テープが絡むなどして個人所有の再生機器を破損させてしまう懸念もある。

りぶらっこ便は昨年度は利用がなかったが、今年度は1件利用実績があり、様子を見ながら今後もサービスを維持していく。図書館ホームページに掲載するなどしているが、広報の仕方には工夫の余地があると思う。

地域図書室の利用が伸びていることについては、若い子育て世代の利用が伸びているのではないかと推測される。ブックスタートの際に地域図書室を紹介していることも影響していると思う。

令和6年度の目標値についてであるが、利用者数や貸出数が減少していることを踏まえて設定したが、ご指摘のとおりである。

(委員)

図書館での読み聞かせなどをやっていただいているボランティアの存在は大変ありがたい。幼稚園や保育園でも絵本の読み聞かせを行っているが、家庭に浸透しているかという点決してそうではない。子どもにスマートフォンで動画を見せて静かにさせる親も多いが、脳の発達にも良くない影響があると医学的にも言われており、発達障害やその傾向のあるかたが増えているが、そういった利用者に対する接し方などの研修は行っているか。

(事務局)

発達障害のかたへの接し方については職員研修を行ったことがある。また、今年の4月にはスマートフォンのアプリを活用して、視覚障害者の見え方について理解を深める研修を行った。

(委員)

電子図書館については、今年度は予算計上しているか。

(事務局)

導入経費の予算計上はしていない。西三河各市はすでに導入しているが、岡崎市では導入できていないという状況である。子どもの読書環境整備という面でやれることがあるのではないかと思いますので、次期子ども読書活動推進計画策定を進めるなかで意見聴取を考えている状況である。

(委員)

近隣自治体では豊橋市が未導入である。周辺自治体の多くが導入していることから、岡崎市でも導入したほうがよいのではないかと思います。

(委員)

館内の Wi-Fi について伺う。30 分毎に認証し直しが必要となるが、もう少し長くできないだろうか。また光回線なのか。

(事務局)

光回線ではなく CATV の無線回線を使用している。多くの利用者の接続が発生すると回線が不安定になるため、利用者には逐次接続をしてもらう設定としている。

(委員)

光回線に変更する予定はないか。

(事務局)

ない。AP に負荷がかからないようにということからこのような設定としている。

(事務局)

研究個室の利用時にタブレット端末の貸出を行っている。閲覧できるウェブサイトには制限があるが、Wi-Fi 接続の時間制限はないので、利用を検討してほしい。

(委員)

会計年度任用職員とは面接を行っているのか。

(事務局)

市職員として採用しており、面接を行っている。

(2) 令和 6 年度事業計画

事務局から説明

(会長)

令和 6 年度事業計画について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(事務局)

バリアフリーサービスの推進は大変ありがたい。館内をみると拡大読書席などもある。特別支援学校でも子どもたちに本を提供したい、という思いはあるが、予算がないという現状があるため、子どもたちが新しい本を読みたいというときに図書館が特別支援学校に貸出を行っているのは大変ありがたいと思う。

手話と声のおはなし会も実施されているが、手話は世界的に言語として認められているが、書き言葉がないという特徴がある。書き言葉について

は日本語を身につけるしかないが、手話の文法と日本語の文法は違うため、本というものがとても大事である。

また、大学の読み聞かせサークルの活動の機会にもなっていることも大切なことと思う。

図書館自体が非常にきれいで、空間も広く、ここにいることが素敵なことのように思える。利用者には学生や老人が多いように見受けられるので、昨今の猛暑もあることからウォータークーラーがあるとより快適な空間になるのではと思う。

活字離れが深刻な社会問題となっている。書店も廃業が相次いでいる。図書館としてどのような対策を講じているか。

(事務局)

利用者にくつろいでもらえる環境づくりや健康管理という面ではいただいたウォータークーラー設置についての提言は大切と思う。図書館利用者だけでなく、ぶら全体の利用者に対する意見として受取、施設管理者とも考えていきたい。

活字離れの問題については、当館が行っている書店と連携して講演会を開催していることが好事例として評価されている。国も問題意識を持っており、文部科学省がホームページで好事例を紹介しており、それらを参考にしながら取り入れられるものがあれば、取り組んでいきたい。

(委員)

図書館のイベントについて。堅い内容のイベントばかりのように思う。わくわくするようなイベントを考えてはどうだろうか。例えば高齢者向けにスマホを活用した図書館利用講座や、高齢者向けの朗読会、小中高生向けにAIを活用した感想文の書き方講座、論文の読み方とか、図書館内で宿泊するイベント、コーヒーの淹れ方講座を行っている図書館もある。AIに聞いてみるとイベントを考えてくれるし、既存の枠から一步踏み出したものを考えてはどうか。

(事務局)

非常におもしろいと感じる。今年度新たなものとして「30分ちょこっと図書館イベント」を開始した。カウンター業務を委託している図書館流通センターはそのようなノウハウを持っているため、市ではなかなか思いつかないようなものも開催してくれている。今いただいたように、取り組む方法も含めて考えていきたい。

(委員)

書店の振興について。市ではどこから本を購入しているか。

(事務局)

岡崎書店図書館流通部とその他の書店のバランスを考慮しながら購入している。市の基本方針として市内業者を優先するというものがあるので、高額図書を購入するときに値引き率の高い業者から購入、特定の業者からしか購入できないといった場合以外は基本的には市内業者から購入している。

(3) 報告事項

ア サービス提供時間短縮についての試験運用

イ 第四次岡崎市子ども読書活動推進計画に関するアンケート調査の実施

ウ 家康文庫のリニューアル

エ 寄附の報告

事務局から説明

(会長)

報告事項について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

サービス提供時間短縮についての試験運用について伺う。レファレンスカウンターの開設時間の短縮と伺ったが、フロア自体を閉めるわけではなく、レファレンスカウンターを閉鎖する、という考えでよいか。また、カウンターは何時頃まで開いている予定なのか。

そのことと、レファレンスを重視している館の方針と反しないのか。考えを伺いたい。

(事務局)

貸出返却業務と閲覧について影響はない。今考えているのはレファレンスカウンターのサービス提供時間短縮である。一般利用者が夜6時を過ぎて利用があるかということとあまりない。質問をいただいて時間を充分にとってから充実した資料紹介をすることもできる。メールでレファレンス依頼をいただいた場合も同様であり、カウンターを開いて対面で実施するというのは夜9時までは必要ないと考えている。

メールなどでも常時受付できるため、館としての方針には反しないと考えており、まずは試験的に行いたい。

質を落としたいくないというところがあるため、サービス提供時間外は、レファレンスカウンターに常駐しないが、利用者から依頼があれば職員が聞き取り等を行うなどを考えている。

(委員)

試験運用は何時ごろまでレファレンスカウンターを開けておくのか。また実施の時期はいつから、いつまでか。期間を区切ってやるのか、そのまま

本番運用とるのか。

(事務局)

秋口から開始し3月末までを考えている。現状の夜間の利用統計や利用状況をみながら統計をとりながらやっている。確定はしていないが、一つの案として19時ごろから職員の配置を変えてはどうか、と検討を進めている。

(委員)

そうすると秋口からずっとそのような体制でやっていく、という認識になるので非常に重要なことである。

働き方改革というが、なぜ職員だけなのか。それ以外の委託業者のスタッフは残っており、レファレンスカウンターで受けていた質問は貸出カウンターで受けることとなる。さっきのレファレンスの全体の問題にも関わってくるが、レファレンスを残っているかたたちに託さないといけなくなる。

働き方改革という言葉を使っているが、全体として、委託業者を含めて、館全体に大きな影響が出る可能性があるし、そのように捉えていく必要があると思う。そのあたりを踏まえて検討が必要である。基本的にはこの試験運用には反対である。

(事務局)

頂いた意見を踏まえて検証を進めたいと考えている。まずはやってみて、かなり支障が出る、ということであれば影響のある部分を直していきたい。

(会長)

その他質問などはよろしいか。(なし)

今回発言のなかったかたからも、意見や感想などをいただきたい。

(委員)

公募委員募集の際に、日頃思っている市民に求められる図書館のありかた、という作文を書いた。例えば半田市立図書館であるが、ホームページに「図書館のサービス拡大・変更」というページがある。岡崎市にも「市民向けサービスの拡大」というように今年あるいは随時、何をやったかわかるようなページがあるとよい。

半田市立図書館の場合は、CDの貸出期間が延ばしたことや、スマホ貸出券を開始した、というようなことが書いてある。市民に向けてどういうことが変わって便利になったのか、ということが書いてあると良いと思う。

図書館に向けた意見を書く用紙の見直しについて。私は図書館の書架整理ボランティアとして活動しているが、用紙に所感を記載する欄があるが、回答がもらえないのであれば不要ではないか。「図書館交流プラザに関するご意見・ご感想」にも意見を記入して投函したが、回答がもらえるのか、意見が反映されるのかわからないので、最近は記入していない。返事や回答を出

さないのであれば、何年か前に行ったアンケートをやる必要があると思う。

また提案であるが、安城市図書情報館の場合は返却ポストに開館時間中でも常に返却できるようになっている。また、日進市立図書館では、返却の場合はカウンターの横に箱があり、そこに返すだけとしている。貸出や予約資料の受取のかたの待ち時間を減らすことができると思う。

(事務局)

HPの方に市民にむけたサービス拡充のお知らせについては今後検討していく。行事の見直しについては、30分ちょこっとイベントについてでも話したが、同じものばかりではなくわくわくするような企画を、という声があったと伝え、考えていきたい。

書架整理ボランティアの用紙の意見については、LSCでとりまとめているため、協議をする。

「図書館交流プラザに関するご意見・ご感想」については、エレベータ右側の掲示板にひと月ごとにまとめて回答を掲示している。同じ意見を何度もいただくなど、場合によっては掲載しないものもあるが、必ず実現できることばかりではないが、回答はしている。

アンケートについては現在はやっていないが、検討していく。

返却ポストの件については、安城市図書情報館は新館を作るときにそういった仕組みを作ったと思う。安城市は、投函する口があつてそこに入れるものであると思うが、口を通ると仮返却状態となり、資料の状態を確認した後、返却をする、という仕組みである。図書館システムにも改修が必要であり、コストも必要となるため、すぐに導入するとはいかないが、導入したいという思いはある。

(会長)

本日の議事は以上でよろしいか。(意見なし)

それではこれで議事及び報告事項は終了とする。